

特別展



大原美術館

異文は 土鳴化は するの か？

大原コレクションでひらく近代への扉

2024.4.23(火) → 9.23(月・祝)

【主催】公益財団法人大原芸術財団 大原芸術研究所・大原美術館

【共催】山陽新聞社 【特別協賛】倉敷紡績株式会社、株式会社クラレ、ちゅうぎんフィナンシャルグループ

【協賛】旭テクノプラント株式会社、エヴァホール、院庄林業株式会社、株式会社ウエスコホールディングス、オーエムグループ、岡山トヨタ自動車株式会社、オルバヘルスケアホールディングス株式会社、学校法人加計学園、カモ井加工紙株式会社、うさぎや、株式会社三晃空調、サンワサプライ株式会社、医療法人水清会水島第一病院、ナカシマホールディングス株式会社、萩原工業株式会社、株式会社藤木工務店、株式会社フジワラテクノアート、両備グループ、ONE GROUP

【後援】岡山県、倉敷市、NHK岡山放送局、RSK山陽放送、OHK岡山放送、TSCテレビせとうち、RNC西日本放送、KSB瀬戸内海放送、倉敷ケーブルテレビ、FM岡山、FMくらしき、大原美術館後援会



特別展

異文化は共鳴するのか？

大原コレクションでひらく近代への扉

2024 4.23(火) → 9.23(月・祝)

ロダン、モネ、セザンヌ、ピカソ——。21世紀の今日もなお、私たちが惹きつける近代美術たち。鉄道や写真といった移動・情報手段の登場は、近代の人々に異なる文化との出会いを促し、芸術家たちはその出会いに刺激され、時に格闘しながら、新たな芸術を生み出していました。異文化が出会い、融合し、混交する。そこから生まれるエネルギーこそが、私たちの心を捉えて止まない近代美術の魅力であり、特質であるといえるでしょう。

1930年に設立された大原美術館は、実業家大原孫三郎(1880-1943)の支援の下に洋画家児島虎次郎(1881-1929)が収集した、近代の西洋美術作品を出発点としています。その後、コレクションは西洋の現代美術、日本の近現代美術、民藝運動ゆかりの作家たちの作品へと範囲を拡大していきますが、その中核となるのは、やはり、19世紀後半から20世紀前半の近代美術であることは間違いありません。そして、大原美術館それ自体もまた、近代が産んだ文化遺産です。本展覧会は、「近代美術の大きな特質と魅力は、異文化の融合、混交にある。」という視点から、大原美術館の豊かな歴史とコレクションを活用して、「大原美術館独自の近代美術再検討」「文化交流の視点に沿った新たな展示」「作品と資料による時代相の再現」を試み、近代美術と大原美術館の魅力を新たな角度からご紹介しようとするものです。

第1章

児島虎次郎、文化の越境者

大原美術館の礎を築いた児島虎次郎は、世界各地で触れた芸術や文化を、自らの創作活動に取り込んでいきました。児島にとって、異文化は他者であると同時に、自身の中に共存し、混交し、創作の原動力を生み出すもの、つまり、自己の重要な一部でもあったといえるでしょう。第1章では、児島の足跡を追いながら、彼の作品にあらわれた他文化への眼差しと、多文化の混交を確認していきます。

第2章

西洋と日本—西洋美術と日本近代美術の交差

異なる文化が接触したとき、そこからどのような創作が生まれてくるのでしょうか。第2章では、「他文化」「裸体」「宗教・信仰」などのテーマに沿って、大原美術館コレクションの中核を占める西洋美術と日本近代美術を対照展示することで、近代における文化の交差という視点から、両者の関係性やこうしたテーマの普遍性を浮き彫りにしてゆきます。

第3章

東西の交流—『白樺』、「民藝」を中心に

大原美術館は、『白樺』と民藝運動との結節点を物語るいくつかの資料を所蔵しています。第3章では、『白樺』同人から永久寄託された西洋美術作品と大原孫三郎・総一郎が支援した日本民藝運動ゆかりの作家たちの作品にそれらの資料群を加え、異文化への関心と多文化の混交、その連続性を概観します。

第4章

近代と現代の共鳴

近代から現代に至る美術の道のりは、反発、克服、憧憬と様々ですが、そこには間違いなく歴史に裏打ちされた近代美術の特質が継承されています。第4章では、現代における近代との関わりの一例を、戦中から戦後、そして当館での滞在制作事業で制作された作品を通して確認しつつ、近代と現代の時空を超えた対話としての美術をご紹介します。

会場	大原美術館 本館
休館日	月曜日(祝日および7月下旬～8月を除く)
開館時間	9:00～17:00(16:30入館締切)
入館料	一般 2,000円 / 高校・中学・小学生(18歳未満の方) 500円 / 小学生未満 無料 大原美術館入館券(本館、工芸・東洋館共通)にてご観覧頂けます。 身体障害者手帳(ミライID)等をお持ちの方は証明書をご提示ください。ご優待いたします。



大原美術館



<https://www.ohara.or.jp>

〒710-8575 岡山県倉敷市中央1-1-15

〈お問い合わせ〉

TEL 086-422-0005 / FAX 086-427-3677 / Email: info@ohara.or.jp

〈交通アクセス〉

電車 ご利用の場合	東京方面 JR山陽新幹線・岡山駅下車→JR山陽本線・倉敷駅下車→徒歩約15分(美観地区) 広島方面 JR山陽新幹線・新倉敷駅下車→JR山陽本線・倉敷駅下車→徒歩約15分(美観地区)
車 ご利用の場合	東京・広島方面 山陽自動車道→倉敷IC→約20分(美観地区) 四国方面 瀬戸中央自動車道→早島IC→約20分(美観地区)

※大原美術館には駐車場がありません。周辺の有料駐車場をご利用ください。

※公益財団法人大原美術館は、2024年4月1日より「公益財団法人大原芸術財団」に名称を変更しました。



児島虎次郎《初秋》



ポール・ゴーギャン《かぐわしき大地》



岸田劉生《童女舞》



オーギュスト・ロダン《ある小さき影》
(白樺美術館より永久寄託)



ジャン・フォートリエ《人質》

©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 E5528